# バルナバの手紙

著者不明
藤遥　制作

# 1〜3章　あいさつ、いけにえと断食

1:1 息子たち、娘たちよ。わたしたちを愛してくださった主の御名によって、平和のうちに、あいさつを送ります。1:2 あなたがたへの神のおきては偉大で豊かですが、わたしは何にもまして、あなたがたの幸いで栄光ある霊をこの上なく喜んでいます。それほどまでに、あなたがたは、霊の賜物の恵みを、植えつけられたものとして受けているのです。1:3 ですから、わたしは救われることを望みながら、なおいっそう自分のことを喜んでいます。主の豊かな泉から、御霊があなたがたの上に注がれているのを、あなたがたのうちに、まことに見ているからです。わたしが慕い求めていたあなたがたの姿は、あなたがたのもとで、それほどまでにわたしの心を打ちました。1:4 ですから、わたしはこのことを確信しています。また、自分でもよくわかっています。あなたがたのところで多くを語ったわたしは、主が義の道でわたしと共に歩んでくださったことを知っているのです。それで、わたしもまた、あなたがたを自分のいのち以上に愛さずにはいられません。主のいのちの望みに基づいて、大きな信仰と愛があなたがたのうちに宿っているからです。1:5 そこで、わたしはこう考えました。自分が受けたものの一部を分け与えようと、あなたがたのために心を配るとしよう。そうすれば、このような霊に仕えたことが、わたしの報いになるだろう、と。それで、わたしは努めて、少しばかりのことを書き送ることにしました。あなたがたが、信仰と共に、知識も完全なものとして持つためです。1:6 さて、主の定めは三つあります。いのちの望み、これはわたしたちの信仰の初めであり、終わりです。義、これは裁きの初めであり、終わりです。喜びと楽しみの愛、これは義のわざのあかしです[1]。1:7 実際、主は預言者たちによって、過ぎ去ったことと今あることを、わたしたちに知らせてくださいました。また、これから来ることについても、その味わいの初穂をわたしたちに与えてくださいました。わたしたちは、その一つ一つが、主の語られたとおりに成っていくのを見ています。ですから、わたしたちは、主を恐れることにおいて、いっそう豊かに、いっそう高く進まなければなりません。1:8 しかし、わたしは教師としてではなく、あなたがたの一人として、わずかなことを示しましょう。それによって、あなたがたは今の時にあって喜ぶことでしょう。

2:1 今は悪い時代で、悪の働きをする者自身が権威を握っているのです。ですから、わたしたちは自分自身に気をつけて、主のおきてを探り求めなければなりません。2:2 そこで、わたしたちの信仰を助けるのは、恐れと忍耐です。わたしたちと共に戦うのは、辛抱強さと自制です。2:3 それで、これらが主にかかわることで清くとどまっているなら、知恵、悟り、わきまえ、知識も、これらと共に喜びます。2:4 実際、主はすべての預言者によって、わたしたちに明らかにしてくださいました。主は、いけにえも燔祭も供え物も必要とされないのです。ある時には、こう言われます。2:5『あなたがたの多くのいけにえは、わたしになんの益があるか、と主は言われる。わたしは燔祭に飽いている。小羊の脂肪も、雄牛と雄やぎの血も、わたしは喜ばない。あなたがたがわたしにまみえようとして来ても、喜ばない。だれが、あなたがたの手からこれを求めたか。あなたがたは、もはやわたしの庭を踏むことはない。上等の小麦粉を携えてくるなら、それはむなしい。薫香は、わたしの忌みきらうものだ。あなたがたの新月と安息日に、わたしは耐えられない』（イザヤ一・一一〜一三）。2:6 こうして、主はこれらを廃されました。強いられるくびきのない、わたしたちの主イエス・キリストの新しい律法が、人の手によらない供え物を持つためです。2:7 また、主は彼らに向かって、こうも言われます。『あなたがたの先祖がエジプトの地から出てきたとき、燔祭といけにえをわたしにささげよと、わたしが彼らに命じたであろうか。2:8 むしろ、わたしはこのことを彼らに命じた。あなたがたはおのおの、心の中で、隣人に対して悪い恨みを抱いてはならない。偽りの誓いを好んではならない』（エレミヤ七・二二〜二三、ゼカリヤ七・一〇、八・一七）。2:9 ですから、わたしたちは悟りのない者とならず、わたしたちの父の善意の思いを感じ取らな

ければなりません。父は、わたしたちが彼らのように迷わず、どうすれば父に近づけるかを求めるよう望んで、わたしたちに語っておられるからです。2:10そこで、わたしたちには、こう言われています。『主へのいけにえは砕けた心である（詩篇五一・一七）。主への香ばしいかおりは、自分を造られた方をあがめる心である』。ですから、兄弟たちよ、わたしたちは自分の救いについて、よく注意しなければなりません。悪い者がわたしたちのうちに迷いを忍び込ませ、わたしたちを、わたしたちのいのちから投げ出すことのないためです。

3:1そこで、主はこれらのことについて、彼らに向かって、また言われます。『なぜ、あなたがたはわたしのために断食するのか、と主は言われる。きょう、あなたがたの声が叫びのうちに聞こえるようにするためか。わたしが選んだ断食は、これではない、と主は言われる。人がおのれを苦しめることではない。3:2あなたがたが首を輪のようにかがめ、荒布をまとい、灰を下に敷いても、それで、受けいれられる断食ととなえることはない』（イザヤ五八・四～五）。3:3しかし、わたしたちには、こう言われます。『見よ、わたしが選んだ断食はこれである、と主は言われる。不義のなわをことごとくほどけ。力ずくの取り引きの結び目を解け。打ちひしがれた者を放って自由にせよ。不正な証文をすべて引き裂け。飢えた者にあなたのパンを裂いて与えよ。裸の者を見たなら、これを着せよ。家のない者をあなたの家に迎え入れよ。身分の低い者を見たなら、これを見過ごしてはならない。あなたの身内の者をも見過ごしてはならない。3:4そのとき、あなたの光は朝早くあらわれ出て、あなたの衣はすみやかに輝き出る[2]。義はあなたの前に行き、神の栄光があなたを包む。3:5そのとき、あなたが叫ぶと、神はあなたに答えられる。あなたがまだ語っているうちに、神は「見よ、わたしはここにおる」と言われる。それは、あなたが自分の中から、なわと、指さすことと、つぶやきの言葉とを除くときである。また、飢えた者に心からあなたのパンを与え、苦しめられた魂をあわれむときである』（イザヤ五八・六～一〇）。3:6ですから、兄弟たちよ、辛抱強い方は、ご自分の愛する方のうちに民を備えられました。そして、その民が純真に信じるようになると前もって見て、すべてのことをわたしたちに前もって明らかにされたのです。わたしたちが、彼らの律法に新しく加わった者のように、それに打ち当たって砕けることのないためです。

## 訳注

1 写本や古い訳によって文が大きく異なり、三つの区切りは確かでない。

2 『あなたのいやし』と読む写本もあり、イザヤ書のギリシア語訳もそう読む。

# 4〜5章　終わりの時と契約、主の苦しみ

4:1 ですから、わたしたちは今あることについてよく調べて、わたしたちを救うことのできるものを探し求めなければなりません。そこで、すべての不法のわざから、完全に逃れましょう。不法のわざがわたしたちを捕らえることのないためです。また、今の時の迷いを憎みましょう。来るべき時に愛されるためです。4:2 自分の魂に気ままを許して、罪人や悪人と連れ立って走るほどの自由を持たせないようにしましょう。彼らと同じようにならないためです。4:3 最後のつまずきが近づいています。そのことについては、エノクが言うとおり、書いてあります。実際、主が時と日を縮めておられるのは、その愛する方が急いで、ご自分の嗣業に来られるためなのです。4:4 預言者も、こう言っています。『十の王国が地上を治める。その後に、小さな王が起る。彼は王たちのうちの三人を一度に倒す』（ダニエル七・二四）。4:5 同じ者について、ダニエルも同じようにこう言っています。『わたしは第四の獣を見た。それは悪く、強く、海のどの獣よりも凶暴であった。そこから十の角が生え出し、その中から小さな若枝の角が出て、大きな角のうち三つを一度に倒すのを、わたしは見た』（ダニエル七・七〜八）。4:6 ですから、あなたがたは悟らなければなりません。さらにまた、わたしはあなたがたの一人として、このこともお願いします。あなたがた一人一人を、また皆を、自分のいのち以上に愛しているからです。今は自分自身に気をつけてください。自分の罪を積み重ねて「契約は彼らのものでもあり、わたしたちのものでもある」[1]と言い、ある人々と同じにならないでください。4:7 たしかに、わたしたちのものです。しかし彼らは、モーセがすでにそれを受けていたときに、次のようにして、それをすっかり失ったのです。聖書がこう言っているからです。『モーセは山で四十日四十夜、断食していた。そして主から契約を受けた。それは主の手の指で書かれた石の板であった』（出エジプト三四・二八、三一・一八）。4:8 しかし彼らは偶像に向かって、それを失いました。主がこう言われるからです。『モーセよ、モーセよ、急いで下りなさい。あなたがエジプトの地から導き出したあなたの民が、不法を行ったからである』（申命九・一二、出エジプト三二・七）。モーセは悟って、二枚の板を手から投げ捨てました。こうして、彼らの契約は砕かれました。愛する方イエスの契約が、イエスを信じる信仰の望みのうちに、わたしたちの心に封印されるためです。4:9 あなたがたのくずであるわたしは、多くのことを書きたいと望みながら、努めて書きました。教師としてではなく、愛する者として書いたのです。わたしたちの持っているものを何一つ欠かさないことが、愛する者にふさわしいからです。ですから、終わりの日に気をつけましょう。実際、今は不法の時で、つまずきも来ようとしています。その中で神の子らにふさわしく立ち向かわないなら、わたしたちの信仰の全期間も、何の益にもならないのです。立ち向かうのは、黒い者に、忍び込むすきを与えないためです。4:10 あらゆるむなしさから逃れましょう。悪い道のわざを完全に憎みましょう。すでに義とされた者のように、自分たちだけで引きこもって、ひとりで過ごしてはなりません。むしろ、一つ所に集まって、皆の益になることを共に求めなさい。4:11 聖書がこう言っているからです。『わざわいなるかな、おのれを見て、賢しとし、みずから顧みて、さとしとする者は』（イザヤ五・二一）。わたしたちは霊の人となりましょう。神のための完全な宮となりましょう。できるかぎり、神を恐れることを思い巡らし、神の戒めを守るよう励みましょう。神のおきてのうちで喜ぶためです。4:12 主は、人をかたより見ることなく、世を裁かれます。人はそれぞれ、自分の行ったことに応じて報いを受けます。善い人なら、その義がその人の先に立って行きます。悪い人なら、悪の報いがその人の前にあります。4:13 それは、わたしたちが招かれた者として安心しきって、罪を抱えたまま眠り込むことのないためです。そうなれば、悪い支配者がわたしたちに対する権威を得て、わたしたちを主の御国から突き出してしまいます。4:14 さらに、わたしの兄弟たちよ、あのことも考えなさい。イスラエルであれほどのしるしと不思議が行われた後で、彼らがこのように見捨てられている

のを見るときには、気をつけましょう。書いてあるとおり、『招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない』（マタイ二二・一四）という者として、わたしたちが見いだされないためです。

5:1 実際、主が肉を滅びに渡すことを忍ばれたのは、わたしたちが罪の赦しによって清められるためでした。それは、主のそそがれた血によるのです。5:2 主については、あることはイスラエルに向けて、あることはわたしたちに向けて書いてあるからです。こう言われています。『彼はわれわれの不法のゆえに傷つけられ、われわれの罪のゆえに弱らされた。その打たれた傷によって、われわれはいやされた。彼は羊のように、ほふり場にひかれて行った。また、その毛を切る者の前に黙っている小羊のように』（イザヤ五三・五、七）。5:3 ですから、わたしたちは主に、この上なく感謝しなければなりません。主は過ぎ去ったことをわたしたちに知らせ、今あることについてわたしたちを賢くしてくださったからです。また、これから来ることについても、わたしたちは悟りのない者ではありません。5:4 聖書はこう言っています。『鳥に網が張られるのは、不当ではない』（箴言一・一七）。これは、義の道の知識を持ちながら、自分を暗やみの道に閉じ込める人が滅びるのは正しい、ということです。5:5 さらに、わたしの兄弟たちよ、このこともあります。主は全世界の主でありながら、わたしたちの魂のために苦しみを受けることを忍ばれました。世の初めに、神が『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造ろう』（創世記一・二六）と言われた相手は、この主です。もしそうなら、では、どうして主は人の手によって苦しみを受けることを忍ばれたのでしょうか。5:6 学びなさい。預言者たちは、主から恵みを受けて、主について預言しました。主ご自身は、肉において現れなければならなかったので、死を滅ぼし、死者からの復活を示すために、苦しみを忍ばれたのです。5:7 それは、先祖たちへの約束を果たすためでした。また、ご自分のために新しい民を備え、地上におられる間に、自ら復活を起こして裁くことを示そうとされたのです。5:8 そのうえ、主はイスラエルを教え、あれほどの不思議としるしを行って、宣べ伝えられました。そして、イスラエルをこの上なく愛されました[2]。5:9 主は、ご自分の福音を宣べ伝えることになるご自分の使徒たちに、あらゆる罪を超えて不法な者たちを選ばれました。義人を招くためではなく、罪人を招くために来られたことを示すためです。そのときに、主はご自身が神の子であることを現されました。5:10 実際、もし主が肉において来られなかったなら、人々は主を見て、救われることなど決してなかったでしょう。人は、やがてなくなる太陽、主の手のわざである太陽を見つめるとき、その光をまともに見ることができないのですから。5:11 ですから、神の子が肉において来られたのは、ご自分の預言者たちを迫害して殺した者たちの罪を、極みまで満たすためでした。5:12 ですから、主はこのために苦しみを忍ばれたのです。神は、主の肉の傷が彼らによるものだと、こう言われるからです。『彼らが自分たちの羊飼を打つとき、群れの羊は滅びる』（ゼカリヤ一三・七）。5:13 しかし、主ご自身が、このように苦しむことを望まれました。主が木の上で苦しまれることが、必要だったのです。主について預言する者が、こう言っているからです。『わたしの魂をつるぎから免れさせてください』。また、『わたしの肉を釘づけにしてください。悪を行う者の群れが、わたしに逆らって起ったからです』（詩篇二二・二〇、一一九・一二〇、二二・一六）。5:14 また、こうも言っています。『見よ、わたしは背をむちに、ほおを平手打ちにまかせた。わたしは顔を固い岩のようにした』（イザヤ五〇・六～七）。

## 訳注

1 写本は『わたしたちのもの』『あなたがたに残る』と読む。ここはラテン語訳による。

2 ラテン語訳は『彼らは信じず、彼を愛さなかった』と読む。

# 6〜7章　石と良い地、二頭の雄やぎ

6:1 では、主が戒めを果たされたとき、何と言われているでしょうか。『だれがわたしと争うのか。わたしに立ち向かうがよい。あるいは、だれがわたしに対して義とされようとするのか。主のしもべに近づくがよい』（イザヤ五〇・八）。6:2『あなたがたはわざわいだ。あなたがたは皆衣のようにふるび、しみがあなたがたを食いつくすからである』（イザヤ五〇・九）。また、主は打ち砕く強い石として置かれたので、預言者はさらにこう言っています。『見よ、わたしはシオンの基に、高価な、選ばれた、隅の、尊い石をすえる』（イザヤ二八・一六）。6:3それから、何と言っているでしょうか。『彼に望みを置く者は、永遠に生きる』（イザヤ二八・一六）。では、わたしたちの望みは石の上にあるのでしょうか。決してそうではありません。そうではなく、主がご自分の肉を力のうちに据えられたのです。こう言っているからです。『そして彼は、わたしを固い岩のように据えた』（イザヤ五〇・七）。6:4預言者はまた、こう言っています。『家造りらの捨てた石は隅のかしら石となった』（詩篇一一八・二二）。また、こう言っています。『これは主が設けられた、大いなる、驚くべき日である』（詩篇一一八・二四）。6:5わたしは、あなたがたが悟れるように、ごく分かりやすく書いています。わたしは、あなたがたの愛のためにくずとなる者です。6:6では、預言者はさらに何と言っているでしょうか。『悪を行う者の群れがわたしを取り巻き、蜜蜂が蜂の巣を囲むように、わたしを囲んだ』。また、『わたしの着物をくじ引にした』（詩篇二二・一六、一一八・一二、二二・一八）。6:7ですから、主が肉において現れ、苦しみを受けようとしておられたので、その苦しみがあらかじめ明らかにされたのです。預言者がイスラエルについて、こう言っているからです。『わざわいなるかな、彼らの魂は。彼らは自分自身に逆らって悪いはかりごとをめぐらし、「正しい者を縛ろう。彼はわたしたちにとって厄介な者だから」と言ったからである』（イザヤ三・九〜一〇）。6:8もう一人の預言者モーセは、彼らに何と言っているでしょうか。『見よ、主なる神はこう言われる。主がアブラハムとイサクとヤコブに誓われた良い地に入り、それを受け継げ。乳と蜜の流れる地である』（出エジプト三三・一、三）。6:9では、知識は何と言っているでしょうか。学びなさい。知識はこう言います。「肉においてあなたがたに現れようとしておられるイエスに、望みを置きなさい」。実際、人は苦しみを受ける地です。アダムは、地のおもてから形づくられたからです。6:10では、『良い地に、乳と蜜の流れる地に』とは、何を言っているのでしょうか。兄弟たちよ、ご自分の隠された事についての知恵と理解をわたしたちのうちに置いてくださった、わたしたちの主は、ほむべきかな。預言者は主のたとえを語っているからです。知恵があり、わきまえがあり、自分の主を愛する者でなければ、だれがそれを理解するでしょうか。6:11ですから、主は罪の赦しによってわたしたちを新たにしてくださったので、わたしたちを別のひな型に造られました。こうしてわたしたちは、まるで主がわたしたちを造り直しておられるかのように、幼子の魂を持つようになったのです。6:12聖書は、神が子にこう言われるところで、わたしたちについて語っているからです。『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに地の獣と、空の鳥と、海の魚とを治めさせよう』（創世記一・二六）。また主は、わたしたちが良く造られたのを見て、こう言われました。『生めよ、ふえよ、地に満ちよ』（創世記一・二八）。これらは子に向けて言われたのです。6:13もう一度、主がわたしたちに向けてどのように言われるかを、あなたに示しましょう。主は終わりの時に、二度目に人を形づくられました。主はこう言われます。『見よ、わたしは終わりのものを初めのもののようにする』。ですから、預言者はこのことについて、こう宣べ伝えました。『乳と蜜の流れる地に入り、それを従わせよ』（出エジプト三三・三、創世記一・二八）。6:14ですから、見なさい。わたしたちは造り直されたのです。ほかの預言者によって、主がさらにこう言われているとおりです。『見よ、と主は言われる。わたしはこれらの者から』、すなわち、主の霊があらかじめ見ていた者たちから、『石の心を取り去り、肉の

心を入れる』（エゼキエル一一・一九、三六・二六）。主ご自身が肉において現れ、わたしたちのうちに住もうとしておられたからです。6:15 実際、わたしの兄弟たちよ、わたしたちの心という住まいは、主のための聖なる宮なのです。6:16 主はさらに、こう言われるからです。『わたしは何によって、わが神、主の前に現れ、栄光を受けるのか』。また、こう言われます。『わたしは兄弟たちの集会の中であなたをほめたたえ、聖徒たちの集会の中であなたをほめ歌う』（詩篇四二・二、二二・二二）。ですから、主が良い地に導き入れてくださったのは、わたしたちなのです。6:17 では、乳と蜜とは何でしょうか。それは、幼子がまず蜜で、次に乳で生かされるからです。ですから、わたしたちも同じように、約束への信仰とみことばによって生かされ、地を従わせながら生きるようになるのです。6:18 わたしたちは、前にこう述べました。『彼らは生み、ふえ、魚を治めよ』。では、今、獣や魚や空の鳥を治めることのできる者が、だれかいるでしょうか。実際、治めるとは、権威を持ち、命じて支配することだと、わたしたちは感じ取らなければなりません。6:19 ですから、もし今それが起こっていないのなら、主はそれがいつ起こるかを、わたしたちに語られたのです。わたしたち自身も完全な者とされて、主の契約を受け継ぐ者となるときです。

7:1 ですから、喜びの子供たちよ、理解しなさい。善い主は、すべてのことをあらかじめわたしたちに明らかにしてくださいました。わたしたちが、すべてのことについて感謝し、だれを賛美しなければならないかを知るためです。7:2 そこで、神の子は、主であり、生きている者と死んだ者とをやがて裁かれる方でありながら、苦しみを受けられました。その打たれた傷が、わたしたちを生かすためです。そうであれば、神の子は、わたしたちのゆえでなければ、苦しみを受けることはできなかったと信じましょう。7:3 それだけでなく、主は十字架につけられたとき、酢とにがみを飲まされました。宮の祭司たちが、このことについてどのように明らかにしたかを、聞きなさい。『定められた断食を守らない者は、死によって断たれる』（レビ二三・二九）という戒めが書かれていたのに、主はあることを命じられました。主ご自身も、わたしたちの罪のために、霊の器をいけにえとして献げようとしておられたからです。主は、祭壇の上に献げられたイサクのときに示されたひな型も、成し遂げようとされたのです。7:4 では、主は預言者によって何と言われているでしょうか。『彼らは、すべての罪のために断食の日に献げられる雄やぎを食べよ』。よく注意しなさい。『祭司たちだけが皆、その臓物を洗わずに、酢とともに食べよ』。7:5 何のためでしょうか。「あなたがたは、わたしの新しい民の罪のために自分の肉を献げようとするわたしに、酢をまぜたにがみを飲ませようとしている。だから、民が断食して、粗布と灰の上で胸を打って嘆いている間に、あなたがただけが食べよ」。主は、ご自分が彼らによって苦しみを受けなければならないことを、示そうとされたのです。7:6 主が命じられたことに、注意しなさい。『良くて似た二頭の雄やぎを取って、献げよ。そして、祭司はその一頭を、罪のための燔祭として取れ』（レビ一六・七〜九）。7:7 では、もう一頭はどうするのでしょうか。主はこう言われます。『もう一頭はのろわれたものである』（レビ一六・八）。イエスのひな型がどのように現されているかに、注意しなさい。7:8 『そして、皆でそれにつばきをかけ、突き刺し、その頭に緋色の羊毛を巻きつけよ。そうして、それを荒野に追いやれ』。そのようにされると、雄やぎを運ぶ者は、それを荒野に連れて行き、羊毛を取り外して、ラケル[1]と呼ばれる灌木の上に置きます。わたしたちは野でこの灌木を見つけると、その若芽を食べるのが常です。このように、ラケルの実だけが甘いのです。7:9 では、これは何を意味しているのでしょうか。注意しなさい。『一頭は祭壇に、もう一頭はのろわれたものとして』。そして、のろわれた雄やぎが冠をかぶせられているのは、なぜでしょうか。それは、その日に人々が、足までたれた緋色の衣を身にまとった主を見て、こう言うからです。「これは、かつてわたしたちが侮り、突き刺し、つばきをかけて、十字架につけた者ではないか。まことに、あのとき自分を神の子だと言っていたのは、この人だった」。7:10 実際、主はどのようにして、あの雄やぎに似ているのでしょうか。そのとき人々は、主の来られるのを見て、その雄やぎとよく似ていることに驚きます。雄やぎが、似ていて、良く、等しいものとされるのは、そのためです。ですから、苦しみを受けようとしておられたイエスのひな型を、見なさい。7:11 では、羊毛をいばらの中に置くのは、なぜでしょうか。それは、教会のために置かれたイエスのひな型です。だれでも緋色の羊毛を取ろうと望むなら、いばらが恐ろしいので、多くの苦しみを受けなければならないからです。そして、苦難を経て、それを手

に入れなければならないのです。主はこう言われます。「同じように、わたしを見、わたしの御国に触れたいと望む者は、苦難を経、苦しみを受けて、わたしを得なければならない」。

**訳注**

1 この名は写本ごとに異なり、どの植物かわかっていない。

# 8〜10章　雌牛の灰、耳と心の割礼、食物の定め

8:1 では、イスラエルに命じられていることは、何のひな型だと思いますか。罪の極みにある男たちが雌牛を献げ、ほふって焼きます。それから少年たちが灰を取って器に入れ、緋色の羊毛とヒソプとを木に巻きつけます。見なさい、ここにもまた、十字架のひな型と緋色の羊毛があります。こうして少年たちが民の一人一人に振りかけ、民が罪から清められるようにするのです。8:2 主がどれほど分かりやすく、あなたがたに語っておられるかを、理解しなさい。子牛はイエスです。献げる罪人の男たちは、イエスをほふり場へ引いて行った者たちです。その後は、もはや男たちではありません。もはや罪人たちの栄光でもありません。8:3 振りかける少年たちは、罪の赦しと心の清めとを、わたしたちに福音として告げ知らせた者たちです。主は、部族のあかしとして十二人いる彼らに、宣べ伝えさせるために、福音の権威を与えられました。イスラエルの部族が十二だからです。8:4 では、振りかける少年が三人なのは、なぜでしょうか。それは、アブラハム、イサク、ヤコブのあかしです。この人たちが、神の前に偉大な者だからです。8:5 では、羊毛が木の上にあるのは、なぜでしょうか。イエスの御国が木の上にあり、イエスに望みを置く者が永遠に生きるからです。8:6 では、羊毛とヒソプとがいっしょなのは、なぜでしょうか。それは、主の御国には悪い、汚れた日々が来て、その日々の中でわたしたちが救われるからです。肉を病む者も、ヒソプの汚れによっていやされるのです。8:7 それゆえ、このように行われたことは、わたしたちには明らかですが、あの人々には暗いのです。あの人々は、主の声を聞かなかったからです。

9:1 実際、主は耳について再び語り、わたしたちの心にどのように割礼を施されたかを言っておられます。主は預言者によってこう言われます。『彼らは耳で聞くと、わたしに従った』（詩篇一八・四四）。また、こう言われます。『遠くにいる者たちは耳で聞き、わたしが行ったことを知る』（イザヤ三三・一三）。また、『あなたがたは心に割礼を受けよ、と主は言われる』（エレミヤ四・四）。9:2 また、こう言われています。『イスラエルよ、聞け。あなたの神、主はこう言われる』。また、主の霊はこう預言します。『永遠に生きたいと望む者はだれか。その者は、わたしのしもべの声を耳で聞け』（詩篇三四・一二、イザヤ五〇・一〇）。9:3 また、こう言われています。『天よ、聞け、地よ、耳を傾けよ。主がこれらのことを、あかしとして語られたからである』（イザヤ一・二）。また、こう言われています。『この民のつかさたちよ、主の言葉を聞け』（イザヤ一・一〇）。また、こう言われます。『子供たちよ、荒野で呼ばわる者の声を聞け』（イザヤ四〇・三）。ですから、主はわたしたちの耳に割礼を施されました。わたしたちがみことばを聞いて、信じるためです。9:4 しかし、彼らが頼りにしている割礼も、廃されました。実際、主は、割礼は肉に施すものではないと言われたのです。ところが彼らは背きました。悪い天使が彼らを欺いていたからです。9:5 彼らには、こう言われています。『あなたがたの神、主はこう言われる』。ここに、わたしは戒めを見いだします。『いばらの中に種をまくな。あなたがたの主のために割礼を受けよ』（エレミヤ四・三〜四）。では、何と言われているでしょうか。『あなたがたのかたくなな心に割礼を受けよ。あなたがたの首をこわくしてはならない』（申命一〇・一六）。さらに、これも受け取りなさい。『見よ、と主は言われる。すべての異邦人は前の皮に割礼を受けていない。しかし、この民は心に割礼を受けていない』（エレミヤ九・二五〜二六）。9:6 しかし、あなたは言うでしょう。「確かに、民は印として割礼を受けている」。しかし、シリヤ人もアラビヤ人も、偶像の祭司たちも皆、割礼を受けています。では、あの人たちも、この民の契約に属しているのでしょうか。それどころか、エジプト人も割礼を受けているのです。9:7 ですから、愛の子供たちよ、すべてのことについて豊かに学びなさい。初めて割礼を与えたアブラハムは、御霊によって前もってイエスを見つめ、三つの文字の定めを受けて、割礼を施したのです。9:8 聖書がこう言っているからです。『アブラハムは、自分の家の者たちのうち、十八人と三百人の

男に割礼を施した』（創世記一七・二三、二七、一四・一四）。では、アブラハムに与えられた知識とは何でしょうか。学びなさい。初めに十八と言い、間を置いてから三百と言っています。十八は、十がΙ（イオタ）、八がΗ（エータ）です。これで、あなたはイエス（ΙΗΣΟΥΣ）を得ます。また、十字架はΤ（タウ）の形で恵みを持つことになっていたので、三百とも言っています。ですから、二つの文字でイエスを、一つの文字で十字架を示しているのです。9:9 ご自分の教えの植えつけられた賜物を、わたしたちのうちに置かれた方は、このことを知っておられます。わたしから、これより確かな言葉を学んだ者は、だれもいません。しかし、わたしは、あなたがたがそれにふさわしい者であることを知っています。

10:1 モーセは『豚も、鷲も、鷹も、からすも、うろこのない魚もすべて、食べてはならない』と言いました（レビ一一章、申命一四章）。モーセは、悟りのうちに三つの定めを受けていたのです。10:2 そのうえ、モーセは申命記の中で、彼らにこう言っています。『わたしはこの民に、わたしのおきてを契約として定める』。ですから、食べないことが神の戒めなのではありません。モーセは御霊によって語ったのです。10:3 ですから、モーセが豚のことを言ったのは、このためです。モーセは、「あなたは、豚に似た、そのような人々と交わってはならない」と言います。すなわち、その人々は、ぜいたくに暮らしているときには主を忘れ、乏しいときには主を認めます。豚も、食べているときには主人を知らず、飢えているときには鳴きわめき、えさをもらうと、また黙るのと同じです。10:4 『鷲も、鷹も、とびも、からすも、食べてはならない』。それは、「そのような人々と交わってはならず、似てもならない」と言うのです。その人々は、労苦と汗によって自分の食物を得ることを知らず、不法のうちに他人のものを奪います。また、純真に歩んでいるかのように見張り、貪欲のゆえに、だれの身ぐるみをはごうかと見回しています。この鳥たちも同じです。これらの鳥だけは、自分で食物を手に入れません。何もせずにとまったまま、ほかの生き物の肉をどうやってむさぼろうかと探しています。その悪によって、害をなすものだからです。10:5 また、「うつぼも、たこも、いかも、食べてはならない」と言います。それは、「どこまでも不敬虔で、すでに死に定められた、そのような人々と交わって、似た者になってはならない」と言うのです。この魚たちも同じです。これらだけはのろわれていて、深みを漂い、ほかの魚のように泳ぎ回らずに、深みの下の地に住んでいます。10:6 また、『野うさぎも食べてはならない』。何のためでしょうか。「あなたは少年を汚す者になってはならず、そのような者たちに似てもならない」と言うのです。うさぎは、年ごとに排泄の穴を増やすからです。実際、生きた年の数だけ、穴を持っているのです。10:7 また、「ハイエナも食べてはならない」。「あなたは姦淫する者や汚す者になってはならず、そのような者たちに似てもならない」と言うのです。何のためでしょうか。この獣は年ごとに性を変え、あるときは雄に、あるときは雌になるからです。10:8 また、モーセがいたちを憎んだのも、もっともなことです。「あなたは、汚れのゆえに口で不法を行うとわたしたちが聞くような者になってはならない。口で不法を行う汚れた女たちと交わってもならない」と言うのです。この獣は、口で子をはらむからです。10:9 このように、モーセは食物について三つの定めを受けて、御霊によって語りました。ところが彼らは、肉の欲望にしたがって、食べることについて言われたものとして受け取ったのです。10:10 ダビデも、同じ三つの定めの知識を受けて、こう言っています。『さいわいな人は、悪しき者のはかりごとに歩まなかった』。魚が暗やみの中を深みへ進むようにです。『罪びとの道に立たなかった』。主を恐れているように見える者たちが、豚のように罪を犯すようにです。『害をなす者たちの座にすわらなかった』（詩篇一・一）。鳥がとまって獲物をうかがうようにです。あなたがたは、食べることについても、完全に知ったのです。10:11 また、モーセは言います。『ひずめが分かれ、反芻するものは、すべて食べよ』（レビ一一・三、申命一四・六）。何を言っているのでしょうか。それは、食物を受けるとき、養ってくれる者を知り、その者のもとで安らいで、喜んでいるように見える、ということです。モーセは戒めに目を向けて、見事に語りました。では、何を言っているのでしょうか。主を恐れる者たちと交わりなさい。受けたことばの細かな意味を、心の中で思いめぐらす者たちと交わりなさい。主のおきてを語り、守る者たちと交わりなさい。思いめぐらすことが喜びの業だと知り、主のことばを反芻する者たちと交わりなさい。では、ひずめが分かれているとは何でしょうか。正しい者は、この世を歩みながら、聖なる世を待ち望む、ということです。見なさい、モーセはどれほど見事に律法を定めたことでしょう。10:12

しかし、あの人々が、どうしてこれらのことを理解したり、悟ったりできたでしょうか。わたしたちは、戒めを正しく理解したので、主が望まれたとおりに語ります。主がわたしたちの耳と心とに割礼を施されたのは、わたしたちがこれらのことを悟るためです。

# 11〜12章　水と十字架、イエスという名

11:1 さて、主が水と十字架について、前もって明らかにしようと心を配られたかどうかを、尋ね求めましょう。水については、イスラエルのことが書いてあります。罪の赦しをもたらすバプテスマを、彼らは決して受け入れず、自分たちのために建てる、ということです。11:2 預言者がこう言っているからです。『天よ、驚け。地はこのことのために、いっそう震えよ。この民は二つの悪しき事を行ったからである。彼らは、いのちの泉であるわたしを捨て、自分たちのために死の穴を掘った』（エレミヤ二・一二〜一三）。11:3 『わたしの聖なる山シナイは、荒れた岩なのか。あなたがたは、巣を取り去られて飛び立つ鳥のひなのようになるからである』（イザヤ一六・一〜二）。11:4 また、預言者は再びこう言っています。『わたしはあなたの前に行き、もろもろの山を平らにし、青銅の門を打ち砕き、鉄の貫の木を断ち切る。そして、暗い、隠された、見えない宝をあなたに与える。彼らが、わたしが主なる神であることを知るためである』（イザヤ四五・二〜三）。11:5 また、『あなたは、堅い岩の高い洞穴に住む』。また、『その水は確かである。あなたがたは栄光に包まれた王を見る。あなたがたの魂は、主を恐れることを思いめぐらす』（イザヤ三三・一六〜一八）。11:6 また、ほかの預言者によって、こう言われています。『これらのことを行う者は、水の流れのほとりに植えられた木のようになる。その木は時が来ると実を結び、その葉はしぼまない。その人のすることは、皆栄える』。11:7 『悪しき者はそうではない、そうではない。地の面から風の吹き去るもみがらのようである。それゆえ、悪しき者はさばきの中で立ち上がらず、罪びとは正しい者のつどいの中で立ち上がらない。主は正しい者の道を知られ、悪しき者の道は滅びるからである』（詩篇一・三〜六）。11:8 どのように水と十字架とを一つに合わせて定めているかを、感じ取りなさい。実際、こう言っているのです。「十字架に望みを置いて水の中に降りて行った者たちは、さいわいである」。報いについては『時が来ると』と言っているからです。「そのとき、わたしは報いる」と言うのです。しかし、今『葉はしぼまない』と言っているのは、次のことです。信仰と愛のうちに、あなたがたの口から出る言葉はすべて、多くの人の立ち返りと希望になるのです。11:9 また、別の預言者がこう言っています。『ヤコブの地は、全地にまさってほめられていた』。これは、ご自分の霊の器に栄光を与えておられる、ということです。11:10 次に、何と言っているでしょうか。『右から流れ出る川があり、そこから美しい木々が生え出ていた。それらから食べる者は、永遠に生きる』（エゼキエル四七・一〜一二）。11:11 これは、次のことを言っています。わたしたちは、罪と汚れに満ちて、水の中に降りて行きます。そして、心のうちに恐れとイエスへの望みとを御霊によって持ち、実を結びながら上って来るのです。『これらから食べる者は、永遠に生きる』と言っているのは、こういうことです。「これらのことが語られるのを聞いて信じる者は、永遠に生きる」というのです。

12:1 同じように、また十字架について、ほかの預言者の言葉で定めています。『では、これらのことはいつ成し遂げられるのか。主は言われる。木が倒れて起き上がるとき、また、木から血がしたたるときである』。ここにもまた、十字架と、十字架につけられることになっていた方とについての言葉を、あなたは得ます。12:2 また、イスラエルが異国の民に攻められたときにも、モーセに語っています。攻められている彼らに、自分たちが罪のゆえに死に渡されたことを思い起こさせるためでした。御霊はモーセの心に語って、十字架と、苦しみを受けることになっていた方とのひな型を造らせます。「彼らがその方に望みを置かないなら、永遠に攻められる」と言われるのです。そこで、モーセは戦いのただ中で、武具を一つの上に一つと積み重ね、だれよりも高い所に立って、両手を広げました。こうして、イスラエルはまた勝つようになりました。ところが、モーセが手を下ろすたびに、彼らは殺されていきました。12:3 何のためでしょうか。その方に望みを置かないなら救われることはできない、と彼らが知るためです。12:4 また、別の預言者によって、こう言われます。『わたしは一日中、不従順で、わた

しの正しい道に逆らう民に、手を広げた』（イザヤ六五・二）。12:5 モーセはまた、イスラエルが倒れていくとき、しるしのうちにイエスのひな型を造ります。イエスが苦しみを受けなければならず、彼らが滅ぼしたと思うその方ご自身が生かすようになる、ということのひな型です。実際、主はあらゆる蛇に彼らをかませられ、彼らは死んでいきました。違反は、エバのときに、蛇によって起こったからです。モーセは、彼らが自分たちの違反のゆえに死の苦難に渡されることを、彼らに思い知らせようとしたのです。12:6 そのうえ、モーセ自身は『鋳た像も刻んだ像も、あなたがたの神としてあってはならない』と命じました（申命二七・一五）。それでいて、イエスのひな型を示すために、自分で造るのです。そこで、モーセは青銅の蛇を造り、栄光のうちに据えて、布告によって民を呼び集めます。12:7 そこで、民は一つところに集まって来て、自分たちのいやしのために祈りをささげてくれるよう、モーセに願いました。モーセは彼らに言いました。「あなたがたのうちのだれかがかまれたときは、その者は木の上に掛けられた蛇のところへ来なさい。この蛇は死んだものでありながら生かすことができる、と信じて望みを置きなさい。そうすれば、すぐに救われる」。人々はそのようにしました。これらのことのうちにも、あなたはまた、イエスの栄光を得ます。すべてのものはこの方のうちにあり、この方へと向かうからです。12:8 また、モーセはヌンの子イエス（ヨシュア）に、何と言っているでしょうか。モーセは、預言者であるこの人にこの名を付けて、民がみなこの人の言葉だけを聞くようにしたのです。父が御子イエスについて、すべてのことを現しておられる、ということです。12:9 そこで、モーセは、ヌンの子イエスをその地の斥候として遣わしたとき、この名を付けて、こう言います。『あなたの手に書物を取り、主の言われることを書きしるせ。神の子が、終わりの日に、アマレクの家をことごとく根こそぎ断ち切る』（出エジプト一七・一四）。12:10 見なさい、ここでもまたイエスです。人の子ではなく、神の子です。ただ、ひな型として肉のうちに現されたのです。そこで、人々が「キリストはダビデの子だ」と言うようになるので、ダビデ自身が罪人たちの迷いを恐れ、悟って、こう預言します。『主はわが主に言われる。わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ』（詩篇一一〇・一）。12:11 また、イザヤも再びこう言っています。『主は、わたしのキリストである主に[1]言われる。わたしはその方の右の手を取った。もろもろの国をその方の前に従わせ、王たちの力を打ち砕く』（イザヤ四五・一）。見なさい、ダビデはこの方を主と呼び、子とは呼んでいません[2]。

## 訳注

1 一部の写本とイザヤ書のギリシア語訳は『クロス（ペルシャの王）に』と読む。

2 『神の子と呼んでいる』と読む写本も多い。

# 13〜15章　契約を受け継ぐ民、安息日

13:1 さて、この民と最初の民の、どちらが受け継ぐのかを見てみましょう。また、契約はわたしたちと彼らの、どちらのためのものかも見てみましょう。 13:2 ですから、民について聖書が何と言っているかを、聞きなさい。『イサクは、妻リベカが子を産まなかったので、妻のために祈り願った。そして、リベカはみごもった。それから、リベカは主に尋ねようと出て行った。主は彼女に言われた。二つの国民があなたの胎内にあり、二つの民があなたの腹の中にある。一つの民は他の民よりも強く、大きい者は小さい者に仕えるであろう』（創世記二五・二一〜二三）。 13:3 イサクとはだれか、リベカとはだれかを、あなたがたは感じ取らなければなりません。また、この民があの民よりも大きいことを、だれについて示されたのかも、感じ取らなければなりません。 13:4 また、ほかの預言では、ヤコブが自分の子ヨセフに、もっとはっきりとこう言っています。『見よ、主はわたしから、あなたの顔を奪われなかった。あなたの子らをわたしの所に連れてきて、わたしに彼らを祝福させてください』（創世記四八・一一、九）。 13:5 ヨセフは、マナセが年上だったので、マナセが祝福されることを望んで、エフライムとマナセを連れてきました。実際、ヨセフは彼を父ヤコブの右の手に向かわせたのです。しかしヤコブは、後に来る民のひな型を、御霊によって見ました。そして、何と言っているでしょうか。『ヤコブは両手を交差させ、右の手を、二番目の、年下のエフライムの頭に置いて、彼を祝福した。ヨセフはヤコブに言った。あなたの右の手をマナセの頭に移してください。彼はわたしの長子です。ヤコブはヨセフに言った。わかっている、子よ、わかっている。しかし、大きい者は小さい者に仕えるであろう。そして、この者も祝福されるであろう』（創世記四八・一四、一八〜一九）。 13:6 この民こそが最初の者であり、契約を受け継ぐ者であると、だれについて定められたかを、見なさい。 13:7 ですから、アブラハムによってもなお、このことが語られているのなら、わたしたちは自分たちの知識の完全さを得ているのです。では、アブラハムがただひとり信じて義と認められたとき、主はアブラハムに何と言われるでしょうか。『見よ、アブラハムよ、わたしはあなたを、無割礼のままで神を信じる国民の父とした』（創世記一七・四〜五）。

14:1 そのとおりです。しかし、主が先祖たちに、民に与えると誓われた契約を、与えられたのかどうかを、見てみましょう。主は与えられました。しかし彼らは、自分たちの罪のゆえに、それを受けるにふさわしい者になりませんでした。 14:2 預言者がこう言っているからです。『モーセは、民のために主の契約を受けようとして、シナイ山で四十日四十夜、断食していた。そしてモーセは、主の手の指で、御霊によって書かれた二枚の板を、主から受けた。モーセはそれを受けると、民に与えようとして運び下った』（出エジプト三四・二八、三一・一八、申命九・九）。 14:3 そして、主はモーセに言われました。『モーセよ、モーセよ、急いで下りなさい。あなたがエジプトの地から導き出したあなたの民が、不法を行ったからである』（申命九・一二、出エジプト三二・七）。モーセは、彼らがまた自分たちのために鋳た像を造ったことを悟り、それを手から投げ捨てました。こうして、主の契約の板は砕かれました。 14:4 モーセは受けましたが、彼らはふさわしい者になりませんでした。では、わたしたちがどのようにして受けたかを、学びなさい。モーセはしもべとして受けました。しかし主ご自身は、わたしたちのゆえに忍ばれて、わたしたちを嗣業の民とするために、それを与えてくださったのです。 14:5 主が現れたのは、彼らも罪を極みまで満たし、わたしたちが、契約を受け継ぐ主イエスによって、それを受けるためでした。この方は、ご自身が現れて、ことばによってわたしたちのうちに契約を立てるために、備えられたのです。すでに死に食い尽くされ、迷いの不法に渡されていたわたしたちの心を、暗やみから贖い出して、そうされるのです。 14:6 父がこの方にどのように命じておられるかが、書いてあるからです。わたしたちを暗やみから贖い出し、ご自分のために聖なる民を備えるように、というのです。 14:7 そこで、預言者は

こう言っています。『わたしは主、あなたの神である。わたしは正義をもってあなたを召した。わたしはあなたの手を取り、あなたを強くする。わたしはあなたを民族の契約とし、もろもろの国びとの光として与えた。盲人の目を開き、足かせをはめられた者を縄目から出し、暗きに座する者を獄屋から出させるためである』（イザヤ四二・六～七）。ですから、わたしたちは、自分がどこから贖い出されたかを知っています。14:8 預言者は再びこう言っています。『見よ、わたしはあなたを、もろもろの国びとの光とした。あなたが地の果にまで救となるためである。あなたを贖い出した神、主はこう言われる』（イザヤ四九・六～七）。14:9 また、預言者は再びこう言っています。『主の霊がわたしに臨んだ。主がわたしに油を注いで、低い者たちに恵みを福音として告げ知らせるようにしたからである。主はわたしをつかわして、心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を、盲人に見えるようになることを宣べ伝えさせる。また、主の恵みの年と報復の日とを告げ、すべての悲しむ者を慰めさせる』（イザヤ六一・一～二）。

15:1 そこで、さらに安息日についても、主がシナイ山でモーセに顔と顔を合わせて語られた十のことばの中に、こう書いてあります。『清い手と清い心をもって、主の安息日を聖別せよ』（出エジプト二〇・八、申命五・一二）。15:2 また、別の箇所では、こう言われます。『もし、わたしの子らが安息日を守るなら、そのとき、わたしはわたしのあわれみを彼らの上に置く』。15:3 創造の初めには、安息日についてこう言われています。『神は六日のうちに、ご自分の手のわざを造られた。そして、第七日に終えて、その日に休み、これを聖別された』（創世記二・二～三）。15:4 子供たちよ、『六日のうちに終えられた』とは何を言っているのかに、心を留めなさい。これは、主が六千年のうちに万物を終えられる、ということです。実際、主のもとでは、一日は千年を表すのです。そして、主ご自身がわたしに、こうあかししておられます。『見よ、主の日は千年のようになる』（詩篇九〇・四）。ですから、子供たちよ、六日のうちに、すなわち六千年のうちに、万物は終えられるのです。15:5 『そして、第七日に休まれた』。これは、こういうことです。御子が来て、不法の者の時を滅ぼし、不敬虔な者たちを裁き、太陽と月と星を変えられるときです。そのとき、第七日にまことに休まれるのです。15:6 そのうえ、こう言われます。『あなたは、清い手と清い心をもって、これを聖別せよ』（出エジプト二〇・八、申命五・一二）。ですから、神が聖別された日を、今だれかが、心の清い者として聖別できるとします。そうであれば、わたしたちはすべてにおいて迷っていることになります。15:7 見なさい。つまり、わたしたちがまことに休んで、その日を聖別するのは、次のときです。もはや不法がなく、すべてが主によって新しくされ、わたしたち自身が義とされ、約束を受けて、聖別できるようになるときです。そのとき、わたしたちは、まず自分自身が聖別されて、その日を聖別できるようになるのです。15:8 そのうえ、主は彼らにこう言われます。『あなたがたの新月と安息日に、わたしは耐えられない』（イザヤ一・一三）。主がどう言われるのかを、ごらんなさい。「今の安息日は、わたしに受け入れられるものではない。わたしが造った安息日こそ、受け入れられる。その日に、わたしは万物を休ませ、第八の日の初めを造る。それはほかの世の初めである」。15:9 それで、わたしたちも、第八の日を喜びの日として守るのです。その日に、イエスも死人の中からよみがえり、現れてから、天に上られました。

# 16〜18章　神の宮、二つの道

16:1 さらに、宮についても、あなたがたに話しましょう。あのみじめな者たちは迷って、自分たちの神、自分たちを造られた方にではなく、建物に望みを置きました。建物を神の家のように思っていたからです。16:2 実際、彼らは異邦人とほとんど同じように、神を宮の中に祭ったのです。しかし、主が宮を廃して、どう言われるかを、学びなさい。『だれが指を伸ばして天をはかり、たなごころで地をはかったか。わたしではないか。主はこう言われる。天はわが位、地はわが足台である。あなたがたはわたしのためにどんな家を建てようとするのか。またどんな所がわが休み所となるのか』（イザヤ四〇・一二、六六・一）。彼らの望みがむなしいことを、あなたがたは知りました。16:3 そのうえ、再びこう言われます。『見よ、この宮を壊した者たち自身が、それを建てる』（イザヤ四九・一七）。16:4 そのとおりになっています。実際、彼らが戦ったために、宮は敵によって壊されました。今、敵の家来たち自身が、それを建て直すのです[1]。16:5 また、町と宮とイスラエルの民が引き渡されることになっていたことも、明らかにされました。聖書がこう言っているからです。『終わりの日に、こうなる。主は、牧場の羊と、その囲いと、その塔とを、滅びに渡される』。そして、主が語られたとおりになりました。16:6 では、神の宮はあるのかを、探ってみましょう。あります。神ご自身が、造り、仕上げると言われるところにあるのです。こう書いてあるからです。『こうなる。週が終わるとき、神の宮が、主の名の上に、栄光のうちに建てられる』。16:7 ですから、わたしは、宮があることを見いだします。では、それがどのようにして主の名の上に建てられるのかを、学びなさい。わたしたちが神を信じる前は、わたしたちの心という住まいは、朽ちるものので、弱いものでした。まことに手で建てた宮のようだったのです。偶像礼拝に満ち、神に逆らうことを行っていたために、悪霊の家となっていたからです。16:8 しかし、宮は主の名の上に建てられます。主の宮が栄光のうちに建てられるように、心を留めなさい。どのようにしてかを、学びなさい。わたしたちは罪の赦しを受け、御名に望みを置いて、初めから再び造られ、新しい者となりました。ですから、神はまことに、わたしたちの住まいの中に、わたしたちのうちに住んでおられるのです。16:9 どのようにしてでしょうか。神の信仰のことば、神の約束の招き、おきての知恵、教えの戒めによってです。また、わたしたちのうちで預言し、わたしたちのうちに住まわれる神ご自身によってです。神は、宮の戸、すなわち口をわたしたちに開き、悔い改めを与えて、死の奴隷だった者たちを朽ちない宮に導き入れられるのです。16:10 実際、救われることを切に願う者は、人を見ずに、その人のうちに住んで語っておられる方を見て、その方に驚きます。語る者の口からそのようなことばを聞いたことも、自分で聞きたいと願ったことも、一度もなかったからです。これが、主のために建てられる霊の宮です。

17:1 わたしは、できるかぎり、また分かりやすく、あなたがたに明らかにしてきました。そのかぎりでは、わたしの願いどおりに、救いにかかわることを何一つ省いていないと、わたしの魂は望みを抱いています。17:2 実際、今あることやこれから来ることについて、あなたがたに書くなら、あなたがたは決して理解しないでしょう。それらは、たとえその中に置かれているからです。これらのことは、このとおりです。

18:1 さて、別の知識と教えにも移りましょう。教えと権威の道は二つあります。光の道と暗やみの道です。二つの道の違いは大きいのです。実際、一方の道には、光へと導く神の天使たちが置かれ、もう一方の道には、サタンの天使たちが置かれています。18:2 そして、一方は、とこしえからとこしえまで主であられる方です。もう一方は、今の不法の時の支配者です。

## 訳注

1 『彼ら自身も敵の家来たちも』と読む写本もある。

# 19〜21章　光の道、黒い者の道、結び

19:1 ですから、光の道はこうです。だれかが、定められた場所へと道を行こうと望むなら、その人は自分の行いに励みなさい。それで、その道を歩むためにわたしたちに与えられた知識は、次のようなものです。 19:2 あなたを造られた方を愛しなさい。あなたを形づくられた方を恐れなさい。あなたを死から贖われた方をあがめなさい。心の素直な者、霊において豊かな者でありなさい。死の道を歩む者たちと交わってはなりません。神に喜ばれないものを、すべて憎みなさい。あらゆる偽善を憎みなさい。主の戒めを決して捨ててはなりません。 19:3 自分を高くしてはなりません。かえって、すべてにおいてへりくだった者でありなさい。自分に栄光を取ってはなりません。隣人に対して悪いはかりごとをめぐらしてはなりません。自分の魂におごりを許してはなりません。 19:4 不品行をしてはなりません。姦淫してはなりません。少年を汚してはなりません。ある人々の汚れの中で、あなたから神のことばが出ることは、決してあってはなりません。人のあやまちを責めるときに、分け隔てしてはなりません。柔和でありなさい。穏やかでありなさい。聞いたことばにおののく者でありなさい。兄弟に恨みをいだいてはなりません。 19:5 そうなるかならないかと、決して思い迷ってはなりません。主の名を決してみだりに唱えてはなりません。自分のいのち以上に隣人を愛しなさい。子供を堕胎によって殺してはなりません。また、生まれた子を殺してもなりません。息子や娘から決して手を引いてはなりません。かえって、幼いときから神を恐れることを教えなさい。 19:6 隣人のものをむさぼる者に、決してなってはなりません。貪欲な者に、決してなってはなりません。また、高ぶる者たちと心から交わってもなりません。かえって、へりくだった人々や正しい人々と共に暮らしなさい。神なしには何事も起こらないと知って、身に起こる出来事を、良いものとして受け入れなさい。 19:7 考えの定まらない者であってはなりません。おしゃべりな者であってもなりません。主人たちには、神のかたどりに対するように、慎みと恐れをもって従いなさい。同じ神に望みを置いているあなたのしもべやはしためには、決して腹立ちまぎれに命令してはなりません。そんなことをすれば、彼らは、両方の上におられる神を恐れなくなるかもしれません。人を分け隔てして招くために来られたのではなく、御霊が備えられた人々のところに来られたからです。 19:8 隣人とすべてのものを分かち合いなさい。自分のものだと言ってはなりません。実際、あなたがたが朽ちないものを共にしているのなら、朽ちるものではなおさらではありませんか。口の軽い者であってはなりません。口は死のわなだからです。できるかぎり、自分の魂のために、清く身を保ちなさい。 19:9 受けるときには手を伸ばし、与えるときには手を縮める者になってはなりません。あなたに主のことばを語る人をみな、目のひとみのように愛しなさい。 19:10 裁きの日を、夜も昼も覚えていなさい。また、日ごとに聖徒たちの顔を探し求めなさい。言葉によって労し、励ますために出かけて行き、ことばによって魂を救うことを思い巡らしながら、求めるのです。あるいは、自分の手で働いて、自分の罪の贖いとしなさい。 19:11 与えるのをためらってはなりません。与えるときに、つぶやいてもなりません。しかし、報いを良く返してくださる方がだれであるかを、あなたは知るようになります。受けたものを、加えもせず、減らしもせずに守りなさい。悪を最後まで憎みなさい。正しく裁きなさい。 19:12 分裂を起こしてはなりません。かえって、争っている者たちを引き合わせて、和解させなさい。自分の罪を告白しなさい。悪い良心をいだいたまま、祈りに出てはなりません。これが光の道です。

20:1 しかし、黒い者の道は曲がっていて、のろいに満ちています。実際、それは罰を伴う永遠の死の道で、その中には、彼らの魂を滅ぼすものがあります。偶像礼拝、厚かましさ、力の高ぶり、偽善、二心、姦淫、殺人、略奪。高慢、違反、欺き、悪意、身勝手、まじないの薬、魔術、貪欲、神を恐れないこと。 20:2 彼らは、善い人々を迫害する者、真理を憎む者、偽りを愛する者、義の報いを知らない者です。善にも正しい裁きにも結びつかない者、やもめとみなしごを顧み

ない者です。神を恐れるためではなく、悪のために目を覚ましている者です。柔和と忍耐は、彼らから遠く離れています。むなしいものを愛し、見返りを追い求める者、貧しい人をあわれまない者です。虐げられている人のために骨を折らない者、たやすく悪口を言う者、自分を造られた方を知らない者です。子供を殺す者、神の形づくられたものを滅ぼす者、困っている人を退ける者です。苦しんでいる人を虐げる者、金持ちの弁護をし、貧しい人を不法に裁く者、あらゆる罪にまみれた者です。

21:1 ですから、書かれているかぎりの主のおきてを学んで、その中を歩むのは良いことです。実際、これらを行う者は、神の御国で栄光を受けます。あれらを選ぶ者は、その行いと共に滅びます。それゆえ復活があり、それゆえ報いがあるのです。21:2 上に立つ人々にお願いします。あなたがたのところには、善を行ってあげられる人々がいます。わたしの善意から出る勧めを、いくらかでも受け入れてくださるなら、善を行うことを欠かさないでください。21:3 その日は近づいています。その日には、すべてのものが悪い者と共に滅びます。主は近く、その報いも近いのです。21:4 重ねて、あなたがたにお願いします。互いに良い立法者となってください。互いに忠実な助言者であり続けてください。あらゆる偽善を、あなたがたの中から取り除いてください。21:5 全世界を支配しておられる神が、あなたがたに、知恵、悟り、わきまえ、ご自分のおきての知識、忍耐を与えてくださいますように。21:6 そして、主があなたがたに何を求めておられるかを探り求めて、神に教えられる者となりなさい。また、裁きの日に見いだされるように行いなさい。21:7 善いことを思い起こす心があるなら、これらのことを思い巡らしながら、わたしを覚えていてください。それは、わたしの願いも、眠らずに努めたことも、何か善いことに至るためです。好意を求めて、あなたがたにお願いします。21:8 良い器がまだあなたがたと共にあるうちは、自分たちのことで何一つ欠かさないでください。かえって、絶えずこれらのことを探り求め、あらゆる戒めを満たしなさい。それには、それだけの値打ちがあるからです。21:9 それで、あなたがたを喜ばせようと、できるかぎりのことを書くことに、いっそう努めました。お元気で、愛と平和の子供たちよ。栄光とあらゆる恵みの主が、あなたがたの霊と共にありますように。

SB:1 バルナバの手紙

# バルナバの手紙

2026年11月23日版
著者　著者不明
制作　藤遥
発行　christian-classics-jp
公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/barnabas/
原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/barnabas
全文を、ギリシア語原文（Βαρναβα ἐπιστολη）からAIを使って翻訳しました。
訳文はCC BY-SA 4.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。